

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・合谷 写真・後藤
山番号	NO. 1953・54
日時	2021年11月03日(水・晴)～04日(木・晴)
山域	長野県青木村・子檀嶺岳(こまゆみだけ・1223m)、夫神岳(おがみだけ・1250m)
コース	11/03 長泉5:20ー青木村・道の駅9:57ー発10:00ーゲート10:35ー村松西洞登山口10:48ー山頂(昼食)12:03～13:03ー登山口14:04ー道の駅15:09ー田沢温泉「富士屋」(泊) 11/04 宿発8:00ーまるベリーキャンプ場発8:21ー林道終点・登山口9:00ー山頂9:48～10:05ーキャンプ場10:56ーカモシカ・スポーツー長泉
標高差	子檀嶺岳 道の駅約525m～子檀嶺岳1223m＝約698m 夫神岳 キャンプ場約730m～夫神岳1250m＝約520m
快適度	5段階＝5
難易度	非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい
<h2>青木村の里山、二山に上る</h2>	
参加者	後藤、加藤、合谷、星＝4名

今回の山行で信州100名山の子檀嶺岳(こまゆみだけ)と最初の計画では予定していなかった夫神岳(おがみだけ)の青木村の里山2山に登りました。今回は私が7月に購入した新車(トヨタRAV4PHV・600万円)で往復し、新車購入後初めての長距離ドライブとなりました。

11/03 子檀嶺岳

長泉を5時20分に出発し、途中富士ICで加藤さんをピックアップ、新東名、中部横断道、中央道、長野道を使い、安曇野ICからR143を通過して10時前に青木村の道の駅に到着。道の駅からは鋭い台形の特異な姿の子檀嶺岳が一望。山は紅葉真っ盛りである。

子檀嶺岳は山岳信仰の山で、「日本山名総覧」の中の「難読山名一覧」の112山の一つに挙げられている。



子檀嶺岳



夫神岳

天気は快晴。11月初旬なのに夏のような暑さで、防寒対策をしてきたが、その必要は全くなさそうだった。従って軽アイゼンは車においていくことにした。ルートは道の駅を出発点として村松西洞登山口から山頂に登り、統合管社登山口へ下って道の駅に戻ってくる時計周りの周回コースを選択。



道祖神



村松西洞登山口

10時、道の駅を出発。登山口へ向かう途中の民家の庭に赤い実をたくさんつけた夏芽（ナツメ）の木があった。夏芽の実は漢方薬にも使われ、栄養価も高いらしいが、私は食べたことはない。さらに進むと男女の仲睦まじい道祖神が我々を出向かえてくれるように道端に立っていた。

少し進むと林道入り口のゲートに到着。林道を登っていくと10時50分に登山口に到着。登山口から登りが少し急になったが、登山道は整備されており、まるで落ち葉のじゅうたんを歩いてようで非常に気持ちがいい。

（周りは「入山禁止」の看板が多い。入札で得たマツタケ山。場所・規模・質もあるが、ネットでは、1期3年契約という。一番人気の山は、一期100万。ネットの方は、三番人気で30万という。一説には、何千万の山もあるという。

しかし、それだけ投資をしても必ず報われる訳ではない。ただ今年は、大豊作だったという。昨年は、全くダメ。自然が相手だから、なかなか難しい。だけど止められない??!!)



子檀嶺岳



マツタケ山

さらに登っていくとだんだんと紅葉した木々が多くなり、本当に素晴らしい紅葉を堪能することが出来た。(右手には大きな岩壁があった。この岩壁は、道の駅からも確認できる大きなもの)

しばらく登るとさらに急登になる。急登を登り終わると12時過ぎに山頂に到着した。山頂には祠があり、そこで昼食を取った。

(頂上には既に2名の方がいた。1名は若い方で、我々が下る反対側から来たという。1名の年配の方は、下に足立NOの車を置いてあった方。この方は、60歳から登山を始めたという。組織に入るのを嫌い、単独で上っているという。昨日は八ヶ岳に上った。明日はどうするのと聞いたら、「もう、たぶん、帰る」だった)



山頂



左・足立のオジサン、右・若い衆

それにしてもこの山頂からの展望は素晴らしかった。360° 展望が開けており、北西に北アルプス、北に菅平、南に八ヶ岳、東に浅間山が見えた。

(昼食を摂っていると三人の男の子を連れた家族が上って来た。若い方だが、山を知っているようだった。写真を何枚か撮って貰った。「なるべく、皆さん中央に集まって」といわれた。何でも端の方は、レンズの歪みで「美人に撮れない」という。本当かなァ。そこまで考えたことはないと思った) 素晴らしい展望をバックに記念写真を撮り、13時に下山開始。



可愛いポニーちゃん



やっぱり良く撮れている??!! 後ろは浅間山

急なジグザグの登山道を下って、30分程進むと旧鳥居跡の看板があるところに出た。さらに30分程下り、14時に当郷管社登山口に到着。(この辺も、マツタケ山が多い)

そこから舗装路を下っていると、ポニーが我々を見て何かもらえるかと思ったのか柵の所まで寄って来た。だいぶ年配のポニーのように見えたが、人懐こくて可愛い。加藤さんが持っていたリンゴを恐る恐るポニーに与えると美味しそうに食べていた。



ポニーと別れてしばらく下ると子檀嶺岳の特異な台形の姿がよく見えるビューポイントとなった。

さらに下り、大きな御神木のある阿烏川神社で休憩し、15時にスタート地点の道の駅に到着した。天候にも恵まれて、素晴らしい紅葉と展望が楽しめたいい山行であった。



象徴的な子檀嶺岳

11/04 夫神岳

もともと登る計画はなかったが、昨日に子檀嶺岳の南側にある夫神岳を見て、もう来ることもなさそうだし、せっかくだから、登ろうということになった。



夫神山

青木村のHPによれば夫神岳は「雨乞いの山」として名高く、山頂には「九頭竜とイザナミノミコト」を祀った二つの祠があるそうだ。8時に宿泊した田沢温泉の富士屋を出発し、15分程で登り口の「まるベリー（何故かひらがな表記。マルベリーは桑の実の意）オートキャンプ場」に到着。

（実はこの青木村は、私が住んでいる、長泉町と姉妹都市だった。何故だが、HPでは明確な位置づけはなく、何となくみたい。青木村の田沢・沓掛温泉の施設利用には、一回・3,000-の割引がある。（年一回・連泊6,000-割引）

それに気が付いたのが、出かける前日15時で、急いで役場に行き手続きを済ませた。役場も前日だったが、イヤな顔もせずやってくれた。ただ、今回のメンバーで、町民は私だけなので仲間には、ちょっと申し訳なかった）



富士屋旅館

キャンプ場に駐車して、8時20分に登山開始。キャンプ場の標高が730mあり、頂上までは500m程の登りである。林道を40分程登っていくと「夫神岳山頂あと600m」の看板があった。

登山道に入ったが北面のせいか日当たりが悪く昨日ほどは暑くない、しばらく緩やかな斜面登ると急登になり、急登を登り終わると9時50分に山頂に到着した。

山頂には2つの小さな祠があり、木々が生い茂っていて視界が悪く昨日の子檀嶺岳のような展望はなかった。





誰が一番怖い??やっぱ、あの方!!

15分程休憩して、同じルートを下ったが、途中に朴葉がたくさん落ちている場所があったので、皆で朴葉のお面の写真を撮った。10時55分に「まるベリーオートキャンプ場」に到着、登り1時間30分で下り50分の行程であった。その後、青木村の道の駅に行って産直の野菜を買った。

(復路は、往路のR143が狭くて難路だったので、麻積(おみ)ICへの道を辿った。ただ、2万5千図を見ると、難路のR143は主道路の赤表示、後者は細い線の薄色。どう見ても後者が良い道だが、実際と地図表記が違う。何故??

途中、弩田舎に鉄道が走っていた。「篠ノ井線」だった。この鉄道は、塩尻から長野市・篠ノ井駅を結んでいる。全長70Km弱で駅数は15。よく存続しているものだ。私は最初、大糸線と勘違いしていた。多分、一度も乗っていない。廃線??!!になる前に乗りたいね)

「文中()の部分は、後藤が担当しました」



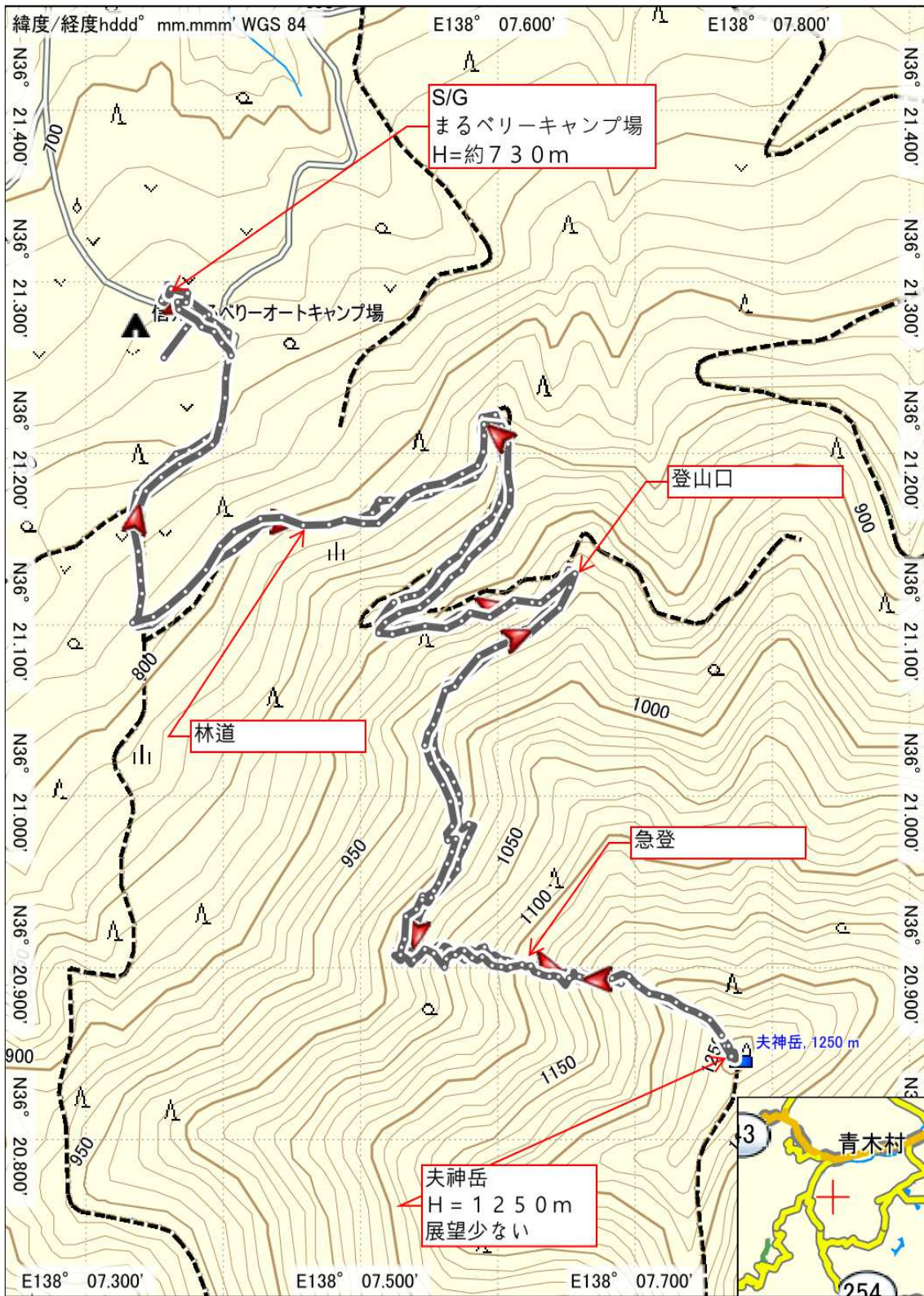
子檀嶺岳遠望



MapInfo 10.5.1 Plus V2
 ©2021 Garmin Ltd. All Rights Reserved. 10000000

2021/11/05 6:54:23

GARMIN



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014



2021/11/05 6:54:23

GARMIN.